

医者の寿命

2014 年 06 月 09 日 06 時 07 分 53 秒

テーマ：医療



先日、広島では在宅医療で有名な後輩が、がんで亡くなりました。

新聞テレビなどのマスコミに登場したり本を書いたり、その活躍をよろこんでいました。私とは、金沢の大学病院の小児外科で数年間一緒に診療、研究した仲間です。愛媛県出身で、優秀で、広島の人間と違った優しさとユーモアがありました。その後、大学の救急医療の助教授として活躍していましたが、在宅医療に転身しました。その彼が、自分の病気の治療は後回しになって、がんで亡くなってしまいました。

全国保険医団体連合会の調査では、開業医の4人に1人がうつ状態で、81・2%が何らかのストレスを持っているそうです。開業医が「引退する年齢」は67・

5 歳、医師の平均寿命は 68 歳～73 歳と短いと言います。

開業医は、自営のため、会社員や公務員のように、なかなか時間が取れず、身体の不調を感じても、病院に掛かる事も無く、自家診療で過ごしていることも多いと思います。どうしようもなくなって、病院を受診した時はすでに手遅れと言うことも多いようです。しかし、そうなることを心配して、定期的に徹底的に健康診断を受けていても、がんで亡くなった友人もいます。

開業して繁盛して忙し過ぎて、ろくに自分の病気の治療もしないまま、若いうちに亡くなった医者も何人か知っています。ストレスが多い仕事だから、ストレスが病気を誘発なんてこともあるんでしょうし、忙しい医者は、医者でありながら自分の健康すら維持できないのが現実です。

『その点あんたは恵まれているわね、ゆったりしていて。』と妻に言われましたが、

何がいいのやら悪いのやら・・・。